

madame

フィガロジャポン

FIGARO

本誌も
madame
FIGARO・jpも
新しいフィガロ
発信中!

japon

août 2017
N°494
特別定価 700yen

8

大好きがたくさん詰まった
可愛いし
バスで
可。

プレフォールも我が道を行く!
独断と偏愛の最新ワードローブ。

重い腰上げ軽やかに!
3日でキレイ、ウィークエンド美容。

セルゲイ・ポルーニン

MET コム デ ギャルソン展
間が示唆する革新の精神。

羊飼いと一緒に、バスクの自然をまるごと満喫。

ビルバオから少し離れた山間の村、アバディーニョに広がる羊牧場。バスクの醍醐味である自然を味わうなら、1日だけ羊飼いになってみませんか？



柵から出た羊たち「アウレラ（進め）」などバスク語で指示をする。先頭には誘導役のボーダーコリー。

1.手前が体験コースで作った羊のミルクプリン、クアハーダ。奥の自家製イディアサバルは購入することも可能。ホール19.50ユーロ



2.ミルクの中には凝固剤として乾燥させた羊の胃が入る。3.仕事前はリラックスモード。4.3日前に生まれた子羊を守ろうと、神経質になっていた母親羊。

遙か昔、アバディーニョ村で人々が暮らし始めた頃から、生活とともにしていたのがラチャという羊たち。良質なミルクを出すため、国のD.O.（原産地呼称認定）を受けたチーズ、イディアサバル作りに欠かせない。このミルクやチーズをすることで生活をしているのが村の羊飼いたちだ。

はりきる牧羊犬に連れられて。

体験ツアーに参加した私たちの前で、羊飼いのバチ・ソラナは「前日も停電だった」とさりとらう。小屋には3匹の牧羊犬と猫、群れからはぐれた羊が縦横無尽に動き回り、さつきまで滞在していたデザインシティ、ビルバオとのギャップを感じる。戸惑いを隠しきれないまま、羊飼いのデビューの時間がやってきた！が、私たち以上に興奮しているのは犬たち。彼らは点在する羊を中央に寄せ、柵から出して移動させる際には先頭と最後尾で羊を挟み込

み、見事に誘導する。なんとも自信に満ちた表情をしているのがほほ笑ましい。「こんなに勢よく走るんだ！」。柵を走り抜けた羊は、想像以上に素早く、参加者の子どもが群れに巻き込まれそうになるほど。それでも歩き始めれば羊は穏やかで、暴れることもない。集団から遅れ気味のマイペースな羊の後ろに回り、さりげなく促すと、羊との距離も縮まってきた。ワイルドなウルキオラ山地に囲まれ、深呼吸をしてみたくなる。羊飼いになるということは、山々とともに生きていくということ。歴史あるバスクの地で実感できるのは、とても贅沢なことだと思えた。

ビルバオ郊外で羊飼いになるなら。

アユイツ・ナトゥラ

Alluitz Natura

Barrio Mendiola 25, 48220 Abadiño ☎688-87-51・20 開催時間：10時～14時 ①一般18ユーロ カード不可 要予約 <http://triptobasquecountry.com/en/a/18-pastor-por-un-dia>



●アバディーニョへのアクセス：ビルバオから車で約45分。

Abadiño

ウルギオラ山地をバックに望む。赤ちゃんの時から羊と一緒に育ててきたヤキの姿を発見。ハチいわく「自分を羊と思い込んでいる」とのこと。